

M O R O



C C

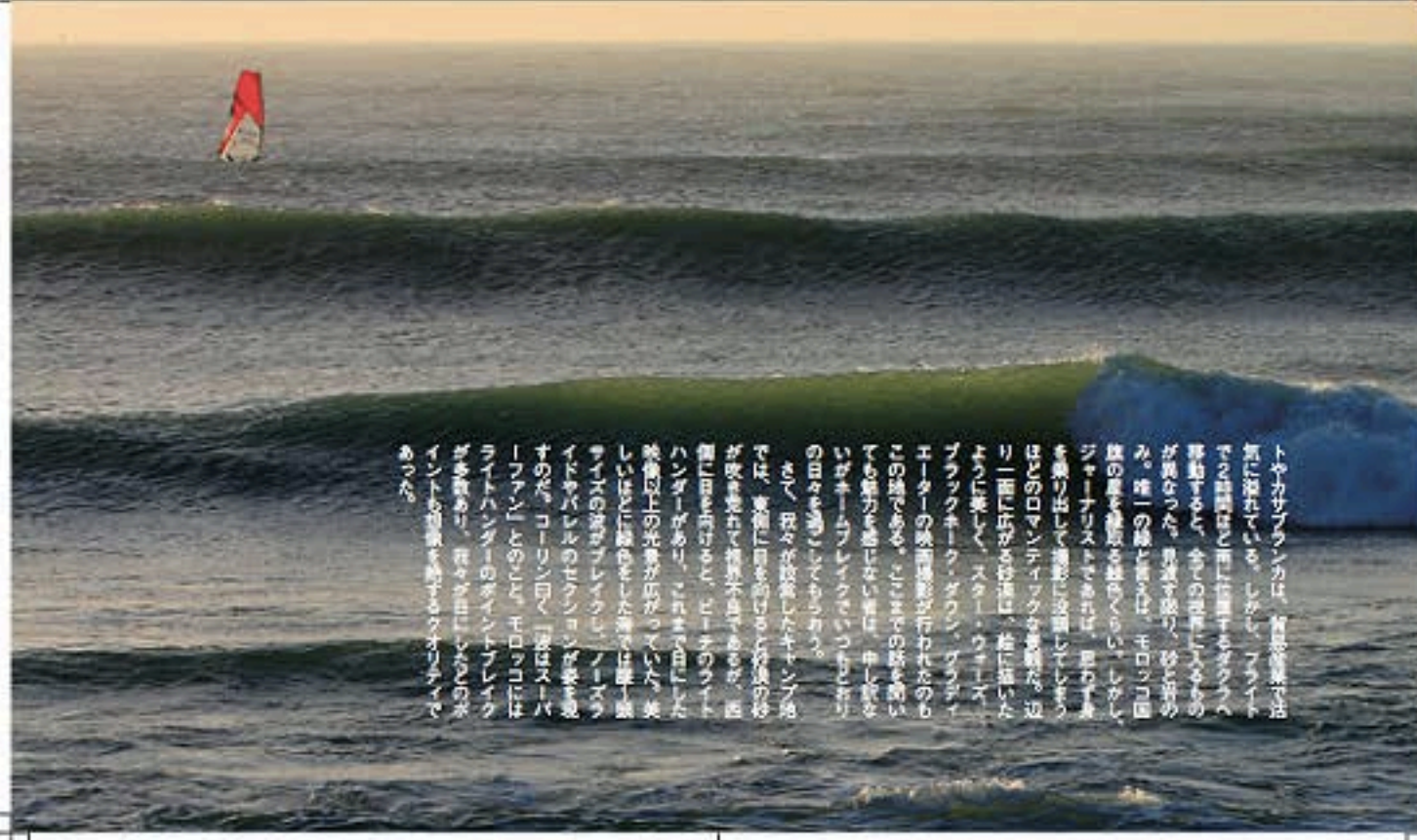


モロッコ～ウエスタンサハラ
北アフリカの砂漠地帯へ

サーファーにとって真国の地へのサーフトリップはやめられない。でもそれが、ある種のリスクを伴うとすれば？ そんな思いを胸にしなが、クオリティアの高い波がブレイクするという北アフリカの大地へコーリン・マクフィリップス、ハーシー・イングリビー、ベン・スキナーらが向かった。

Photos & Text: MoonwakerPhotos.com





トヤカサブランカは、何処か異世界に
河に流れている。しかし、フライト
で2時間ほど西に移動するだけで、
移動すると、全ての世界に入るもの
が異なる。異変が起り、砂と岩の
み。唯一の緑と青は、モロッコ
旗の色を思わせる緑色。しかし、
ジャーナリストであれば、思わず
筆を止めて撮影に没頭してしまう。
ほとどのロマンティックな異変。辺
り一面に広がる砂漠。緑に輝いた
ように美しく、スター・ウォーター
ブラック・クワ・ダウシ、グランド
エーターの映画撮影が行われたもの
この地である。ここまでの話を聞いて
も驚かれない。むしろ、申し分な
いジャーナリストで、いつか
6日かかるとも思った。

さて、我々が訪れたキーン地
では、東側に目を向けると砂漠の砂
が吹き飛ばれて舞舞木舞であるが、西
側に目を向けると、ビーチのフット
ハンダーがあり、これまで白に
映った以上の光景が広がっている。美
しいほどに輝かせた海では、一瞬
サウスの海がプレイバック、ノーブ
イドやパレルのセクションが
すのだ。コリン曰く「モロッコは
「ファン」の心だ。モロッコには
ライトハンダーのタイムトプレイク
が多数あり、我々が訪れたこの水
イベントも多数を誇るクオリティ
であった。



【左】真夜中のダクラ・エアポートに降り立ったコリンとトニー・ロイ。さて、目的地の夜は？（左上から）アラブ文化の影響が強いモロッコ／オーストラリアから参加のハーレー・イングルビーを助ける道徳と名乗ったキャンピング（右下）世界的に有名なモロッコのライトハンダー、アンカーポイント左側）モロッコの美しいウォールを駆け抜けるコリン



政府が発表する海外渡航安全情報
に目を向けると、モロッコは安全と言
われるエリアの方が圧倒的に多い
ということに驚かす。しかし、
その情報を踏まえても、いまま
は、いつになっても海外に飛び出す
ことはできない。そして、我々が今
回体験したトリップの話を聞いては
しい。誰も気づかずに、異変を
れることだろう。海岸のサーフポ
イント、砂漠、緑地、異変、洗練
……。とモロッコワールドを駆け
はきりがない。

サーフ世界でライトトリップを
していれば、サーフインとサーフ
トリップに集中してはいる。自然な
こと、私はトリップに行くチャンス
があれば、そのチャンスをお見逃し
すことはしない。しかし、3ヶ月
ルトロングボードキャンプのコーリ
ン・マックフィリッパスからの連絡
を受け、ウエストコスタ・ハブへのトリ
ップ計画を聞かされた時には正直驚
きが出た。それは、コーリンとト
ニー、ハーレー・イングルビー、イギリス
のベン・スキナー、そして私、ルー
ンウォーカーというメンバーだ。

モロッコを旅へ行くか、見ると旗
りの旗が広がっていた。冒険のつバ



未知なる地ウエスタンサハラ



【上右】モスタガスやウエスタンサハラ半島を視察したローカルガイドのカリム。メンバーはタンクに滞在し、サーフィンと乗馬の楽しみも味わった。

場合によっては、フレンドリーな
が厄介な時もある。それが逆ではま
るのだが、今回の旅で仲良くなったカリ
ム。ある日、日の出を撮影していた
私がモロッコスタイルのカフェオ
レを取りに行くと、満面の笑顔を浮
かべたカリムに遭遇した。もちろん
この手のタイプはどの国や文化であ
ろうと存在する。何が良かかと悪う
と、朝からハイテンションのカリム
は、私のカメラの前でジャンプした
り、笑顔を向けて、ピースサイン
をし始めるのだ。撮影の邪魔になる
ので、今すぐでも手を止めようか
とも考えた。と、冗談はここまでで
にしよう。実は、カリムは若年層成
プロダクトの担当者として、モロッ
コの若手サーファーをトレーニング
している。いつの日かキッズクラブ
と一緒にサーフできないかと考えて
いたと語り、そこで、「もちろん構
わないよ」と、私はさっすまでの感
りを感じた。

ある日、カリムは大型車を借り、

我々を未知のサーフポイントに連れ
ていくと語った。約束の日の午後にな
ると、笑顔をカリムは数人のキッ
ズを乗せたエアコン付きのバスで別
館。目的地を定め込んで準備万全にな
る。一時間ほど北に位置する小さ
な漁村へと車を飛ばした。到着して
見ると、漁村という言葉では切り出
せない光景。幼水シャワーを掛けられ
立小便が射を連ね、全体としてはス
ラム街よりもひどい状況のようと思
えた。ただ、ローカルは笑顔を浮か
べ、たとえ漁村に戸惑っていた人であ
っても、すぐにニコニコしていた。特
に、和ませてもらったのが彼ら
がトニー。水辺の洞穴へと階段に上
っていくと、「シャッター」と声を上げた
ので、「どした？」と聞き返すと、
「この洞穴はローカルのトイレなん
だ。ウンコを落とさなよ」と
言い、この運の悪さはみんなを笑わ
せてくれた。

驚になるあのサイズは大きくなか
ったが、かなりのグッドウェイブ。
シェイプの整ったライトハンダーは
300mもフット可能なパフォーマンス
がバレイクであった。潮回りの関係
でパワーはなかったが、それ
でもロングライド可能。しかも、
我々とキッズだけの貸切りサーフで
視察には波情報のカンパカメラもな
しなかった。



【上右】時計回りのスタイルとスキルを備える著名人ベン・スキナー。ロングボード向けのファンウェイブが点在する北アフリカ、トニ
ー・ロイ/知恵地帯モロッコの地。トニー・コーリン・マクドナルド



